医療法人社団 ヤマナ会
東広島記念病院 広報誌
Vol.9 No.1
発行日 2016年 6月 1日
創刊日 2008年 4月21日

理念

1.私共は医道を尊び、規律を守り社会的責務にこたえます。

2.私共は常に研鑽し信頼される病院を創ります。

3.私共は安全な医療を提供出来る病院をめざします。

患者憲章

1. 尊厳を保つ医療を受ける権利を有します。
2. 納得出来る説明と情報を受ける権利を有します。
3. 十分な情報提供下で治療方針を選択する権利を有します。
4. 医療機関を自由に選択出来る権利を有します。

仙神大滝

仙石庭園（STONE PARK YAMANA）

この庭園は山名会長が趣味人生の集大成として 17 年の歳月をかけて企画、設計、施工しました。6,000 坪の回遊形式の庭園は、その後も質量共に内容を充実させ現在では日本一の石庭となっています。写真に見る大滝は、別名 虹の大滝とも称し、15m の落差の豪快な色石滝です。

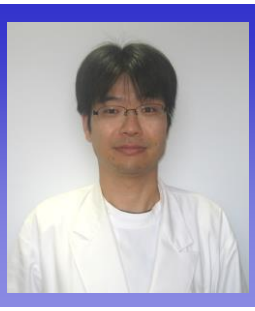
Contents

■特集
見直される csDMARDs（conventional synthetic DMARDs）
東広島記念病院 リウマチ・膠原病センター 院 長 岩橋 充啓
■入職医師紹介
東広島記念病院 リウマチ・膠原病センター 医 師 渡辺 裕文
■お知らせ
リウマチ・内科銀山町クリニック移転
■ヤマナ会グループ施設紹介
広島生活習慣病・がん健診センター東広島

特集

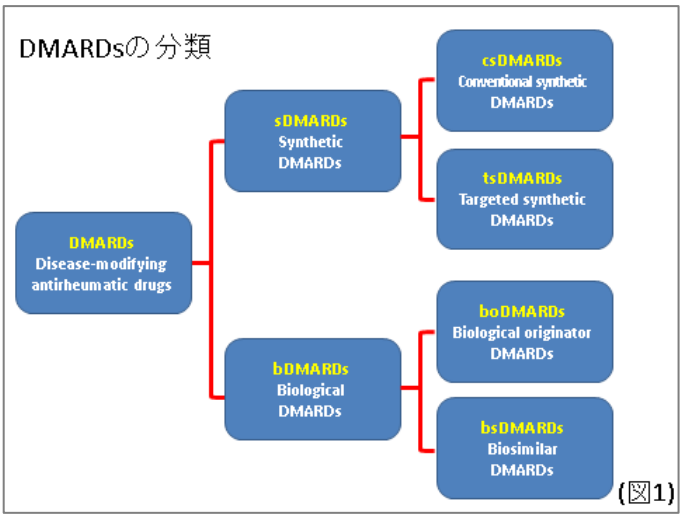
見直される csDMARDs（conventional synthetic DMARDs）

東広島記念病院
リウマチ・膠原病センター
院　長　岩橋　充啓



2003 年以来関節リウマチ治療の花形は生物学的製剤であった。私自身多くの生物学的製剤の講演会講師を務めてきたが、ここ 1～2 年 csDMARDs の講演依頼も多く、またそれらの講演会への注目度が各段に高まり活気があるように思う。今回はなぜ最近 csDMARDs が見直されているのかを考えてみたい。

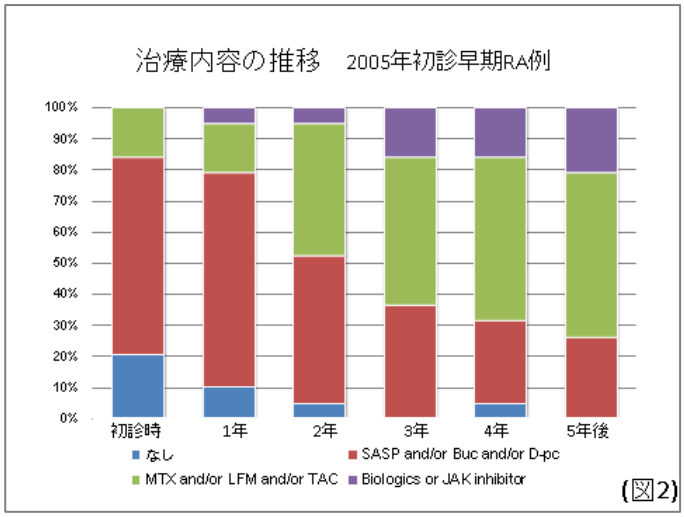
ご存知のように DMARDs とは疾患修飾性抗リウマチ薬(disease-modifying antirheumatic drugs)である。最近では DMARDs は合成抗リウマチ薬(sDMARDs(synthetic))と生物学的製剤(bDMARDs)に分類され、さらに sDMARDs は従来型の合成薬剤 conventional synthetic DMARDs (csDMARDs)とトファシチニブ(ゼルヤンツ®)に代表される特異的分子を標的とした targeted synthetic DMARDs (tsDMARDs) に細分化されている。また bDMARDs はオリジナルに開発された biological originator DMARDs (boDMARDs)とジェネリックである biosimilar DMARDs (bsDMARDs)に分類される(図 1)。



(図1)

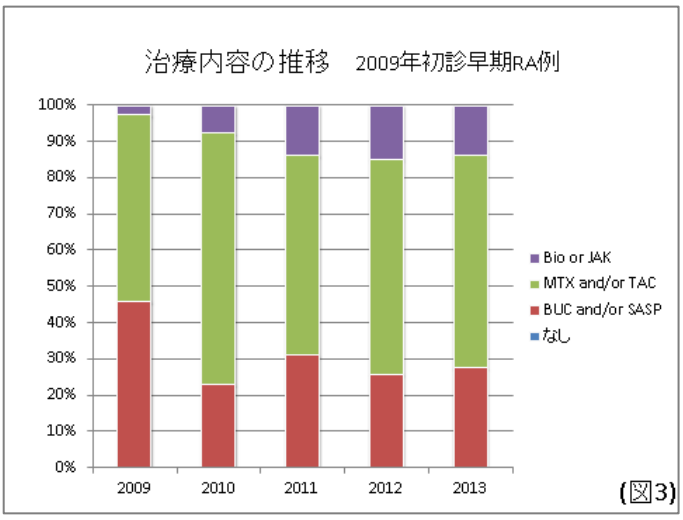
2010 年に ACR/EULAR による RA 新分類基準が提唱された。またわが国では 2011 年、公知申請により MTX の第一選択薬として投与が、さらに 16mg/w までの増量が可能となった。すでに実臨床では行われていたこととはいえ、明文化されることにより更に積極的に MTX のステップアップが可能となったことは間違いない。この流れはリウマチ診療にどのような影響を与えたであろうか？

まだ抗 CCP 抗体の測定が保険収載されていない 2005 年 4 月～7 月、我々は 1987 年 ACR 分類基準を満たさない診断未確定関節炎 105 症例の抗 CCP 抗体を測定した。そのうち抗 CCP 抗体陽性かつ臨床経過を 5 年間追跡可能であった 19 症例の投与薬剤、疾患活動性を DAS28-CRP を用い解析した。投与薬剤を振り返ると診断 2 年後に MTX を投与していた症例は半数に満たないが、5 年後には 75%の症例が MTX を投与していた。MTX へのステップアップが遅れた結果 5 年後に寛解または低疾患活動性の治療目標を達成したのはわずか半数であった(図 2)。発症早期に東広島記念病院を受診していただきながらも 5 年後の目標達成率はわずか半数、大いに反省させられる解析結果であった。



(図2)

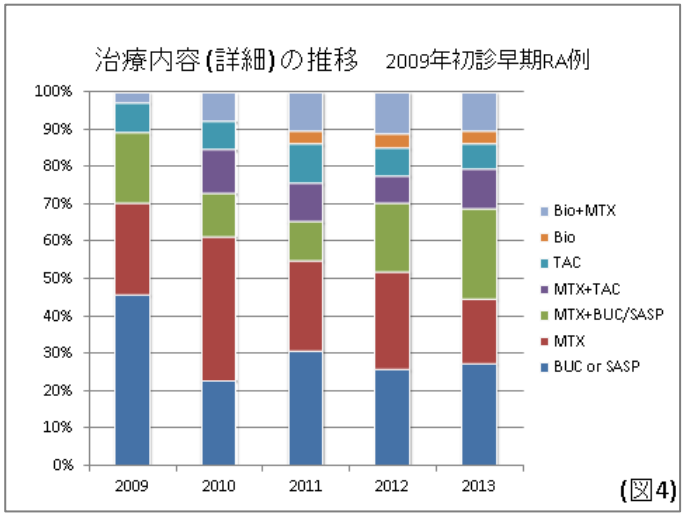
2009 年に当院を受診した、発症 2 年未満の RA 症例を同様に追跡した。初診 1 年後には 75%の症例が MTX を服用しており、その結果 5 年後にはなんと 90%の症例が寛解導入可能であった(図 3)。それらの 38 例のうち bDMARDs の投与を必要としたのはわずか 5 例であり、早期診断、早期治療、早期 MTX 増量により多くの症例は生物学的製剤なしに寛解導入できることが明らかになった。



(図3)

それでは早期に MTX を開始すれば寛解導入、寛解維持は可能であろうか？抗リウマチ薬の変遷についてさらに詳しく検討をしてみた。治療開始 1 年後には MTX+α(csDMARDs)の組み合わせは 18.9%であったが 5 年後には 51.7%の症例が MTX+α(BUC or SASP or TAC)であり MTX 単独で治療している症例はわずか 17.2%であった（図 4)。このように bDMARDs を使用せず RA をタイトコントロールするには csDMARDs の微調整が必要でありそれこそがリウマチ医の使命と考える。

2001 年のインフリキシマブの承認以降 bDMARDs は 8 種類に増え、RA を寛解導入することは容易になると思われた。しかし実際には bDMARDs を生かすのは csDMARDs であり、早期に csDMARDs を開始しさらに各症例に適切な併用療法を見つけることにより多くの症例に長期寛解をもたらすことができる。



(図4)

生物学的製剤の登場以来いかに寛解に導くか？がこの 10 年の課題であった。しかし 65 歳で bDMARDs を開始した症例が 80 歳になり、また MTX 服用症例には MTX-LPD が散見される今、これからの課題は寛解・低疾患活動性に導入した症例の投薬をいかに減量していくか？生涯継続可能な治療薬は何であるか？を考えることである。そのためには 20 世紀からある csDMARDs についても十分知識を持っておく必要がある。まさに温故知新である。

□ 入職医師紹介

東広島記念病院　リウマチ・膠原病センター
渡辺　裕文

渡辺　裕文

平成 28 年 4 月から東広島記念病院 リウマチ・膠原病センターに赴任しました渡辺裕文と申します。これまでは広島大学病院、広島赤十字・原爆病院に勤務していました。広島のリウマチ・膠原病診療に少しでもお役に立てるよう頑張ります。わかりやすく丁寧な説明を心がけてまいりますので、よろしくお願いいたします。

□ お知らせ

リウマチ・内科 銀山町クリニックは広島マツダビル 5 階へ移転しました

平成 28 年 5 月 6 日にリウマチ・内科銀山町クリニックは、通院患者様の利便性がより高くなるように、また広島生活習慣病・がん健診センターとの連携を取り、より充実した診療体制を作るために広島マツダビル 5 階フロアーへ移転しました。

□ ヤマナ会グループ施設紹介

広島県中央部で唯一の健診専門施設
広島生活習慣病・がん健診センター東広島

広島県中央部、賀茂大地にオープンしてはや 17 年、地元東広島市を中心に広島県全域から多くの方にご利用いただいております。山陽自動車道西条 IC に近い立地を生かした巡回健診においても、東広島市をはじめ県内 6 市町村にわたり、また公的機関、公立学校、多くの事業所で実施しております。

これからもこの西条の地で皆様に愛される健診センターを目指していきます。

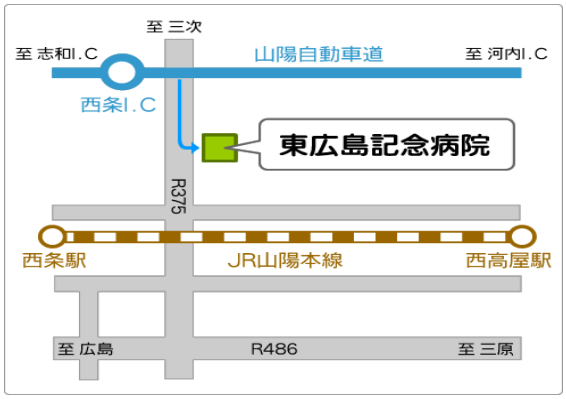
●全国協会健保指定[広島県]
●各健康保険組合指定
●各共済組合指定
●東振協指定

◇人間ドック
◇生活習慣病健診
◇定期健診
◇婦人科健診
◇脳ドック
◇特殊健診
◇産業医
◇ストレスチェック
◇巡回健診

医療法人社団ヤマナ会
広島生活習慣病・がん健診センター東広島

場　　所/東広島市西条町吉行 2214
電　　話/082-423-6662
受付時間/午前 8:30～11:30　午後 14:30～17:00
休 診 日/木・土曜の午後および日曜・祝祭日

周辺地図



ヤマナ会　関連施設

東広島記念病院　リウマチ・膠原病センター
〒739-0002　東広島市西条町吉行 2214
TEL 082-423-6661

リウマチ・内科銀山町クリニック
〒730-0016　広島市中区幟町 13-4 広島マツダビル 5F
TEL 082-228-6661

広島生活習慣病・がん健診センター　東広島
〒739-0002　東広島市西条町吉行 2214
TEL 082-423-6662

広島生活習慣病・がん健診センター　幟町
〒730-0016　広島市中区幟町 13-4 広島マツダビル 4F
TEL 082-224-6661

広島生活習慣病・がん健診センター　大野
〒739-0422　廿日市市大野早時 3406-5
TEL 0829-56-5505

東広島整形外科クリニック
〒739-0024　東広島市西条町御薗宇 4281-1 東広島クリニックビル 1F
TEL 082-431-3500

さくら MRI クリニック
〒730-0016　広島市中区幟町 13-4 広島マツダビル B1F
TEL 082-224-6610

発行　広報委員会
〒739-0002　東広島市西条町吉行 2214　医療法人社団　ヤマナ会　東広島記念病院　リウマチ・膠原病センター
TEL　082-423-6661　　FAX　082-423-7710　　E-mail　izika@hmh.or.jp　　http://www.hmh.or.jp/